シニアの生活実態とICT利用

本章では、調査対象を60代、70代としている

1節 ICT端末所有概況

端末所有状況、スマートフォン所有のきっかけ、相談相手

ポイント

- ●スマートフォン所有率は70代で79%。前年よりさらに+9ポイント(資料8-3)。
- ●70代のスマートフォン所有率は地域差がみられ、関東・東海・近畿が高い(資料8-4)。
- ●スマートフォン所有2年未満では「フィーチャフォンが使えなくなると聞いたから」が最も高い(資料8-8)。

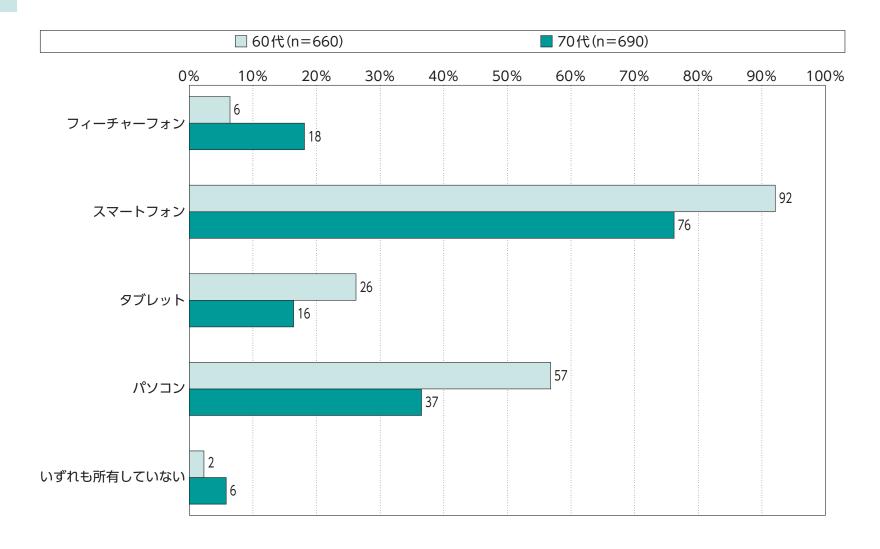
[資料8-1]	ICT端末所有状況 [年代別] (複数回答) ·······192
[資料8-2]	所有しているICT端末の組み合わせ[性年代別]193
[資料8-3]	スマホ・ケータイ所有率の年次推移[年代別] (複数回答)194
[資料8-4]	スマホ・ケータイ所有率[地域別] (複数回答)195
[資料8-5]	スマホ所有時期[地域別]196
[資料8-6]	ICT端末所有状況[就業状況別] ·······197

[資料8-7] スマートフォンを所有したきっかけ[性別]((複数回答)198
[資料8-8] スマートフォンを所有したきっかけ[スマホ	所有歴別] (複数回答) ::199
[資料8-9] スマートフォンを使いこなすための相談相	手[性別] (複数回答)200
[資料8-10] スマートフォンを使いこなすための相談相	手[スマホ所有歴別]
(複数回答)	201

ICT端末所有状況[年代別](複数回答)

資料8-1

- ●9割以上の60~70代がいずれかのICT端末を所有。
- ●スマートフォン所有率は、60代が約9割、70代が約8割。

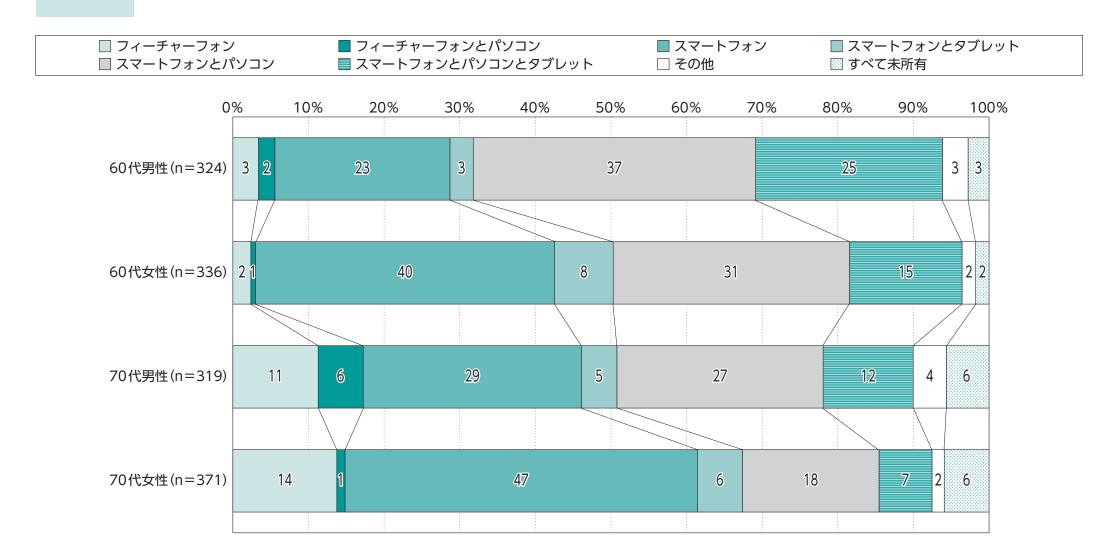


注:「タブレット」「パソコン」は家族で共有して所有している機器も含む。 出典:2023年シニア調査(訪問留置)

所有しているICT端末の組み合わせ[性年代別]

資料8-2

- ●60代男性は「スマートフォンとパソコン」の組み合わせが最も高い。
- ●女性および70代男性は「スマートフォンのみ」が最も高い。



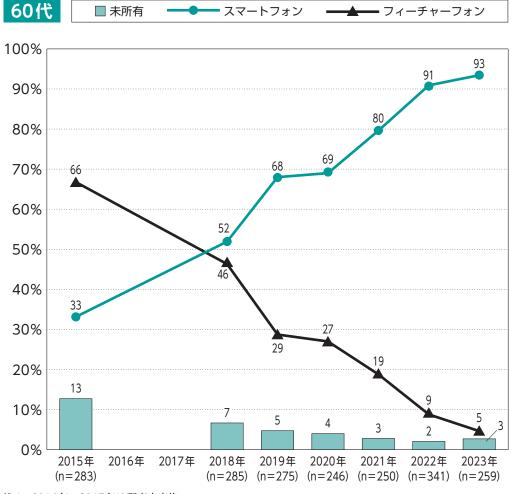
注:「パソコン」「タブレット」は家族で共有して所有している機器も含む。

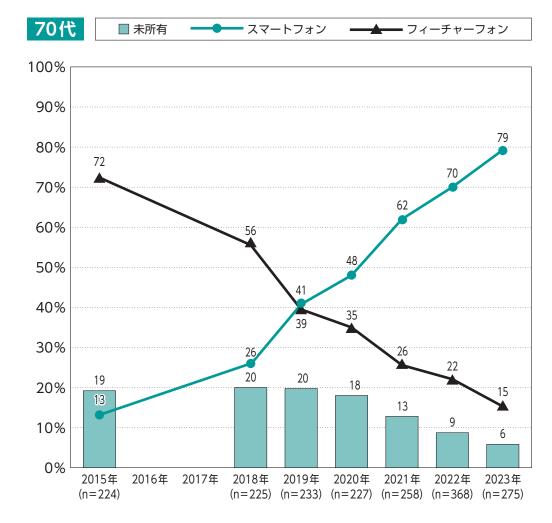
出典:2023年一般向けモバイル動向調査(訪問留置)

スマホ・ケータイ所有率の年次推移[年代別](複数回答)

資料8-3

●スマートフォン所有率は60代で約9割、70代で約8割と拡大。





注1:2016年、2017年は調査未実施。

注2:2015年の「スマートフォン」はタブレット所有を含み集計。 注3:2018年は家族で共有して所有している端末を含み集計。

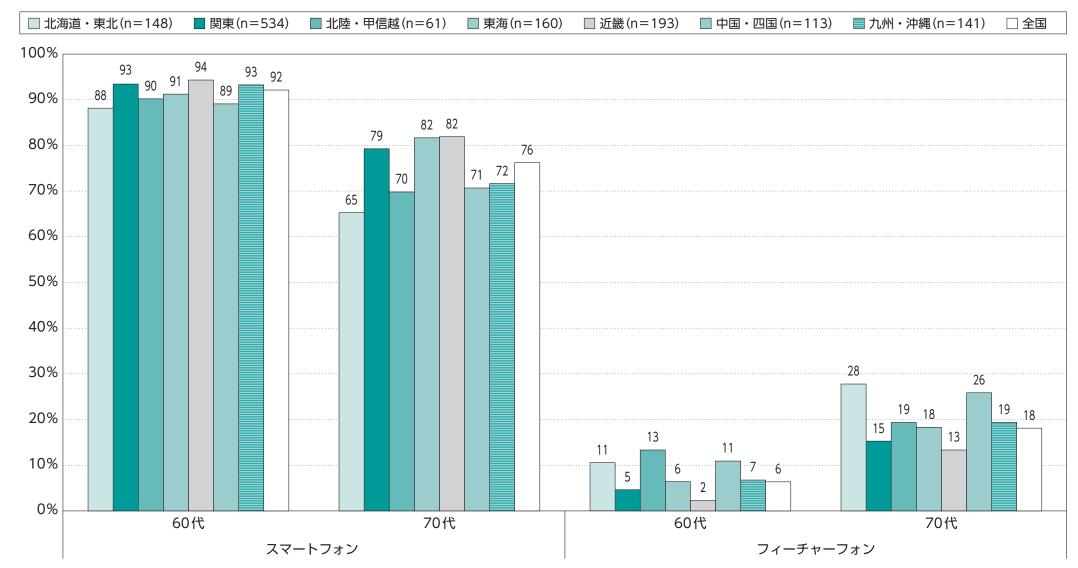
注4:調査対象は関東1都6県。

出典: 2015年アクティブシニアのICT利用生活調査(訪問留置)、2018年-2022年一般向けモバイル動向調査(訪問留置)、2023年シニア調査(訪問留置)

スマホ・ケータイ所有率[地域別](複数回答)

資料8-4

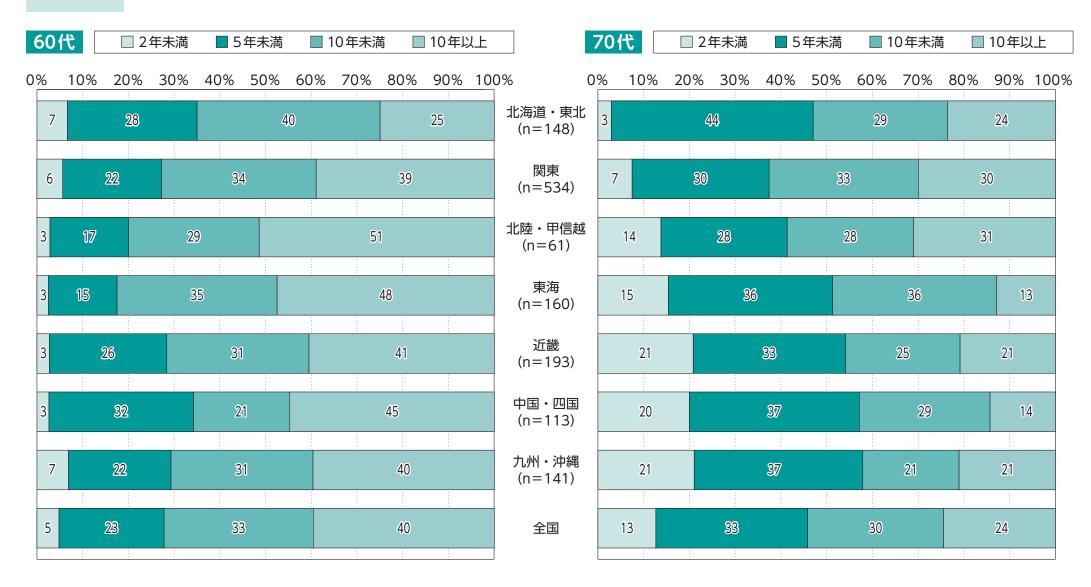
- ●60代のスマートフォン所有率は地域差が少ない。
- ●70代のスマートフォン所有率は地域差がみられ、関東・東海・近畿が高い。



スマホ所有時期[地域別]

資料8-5

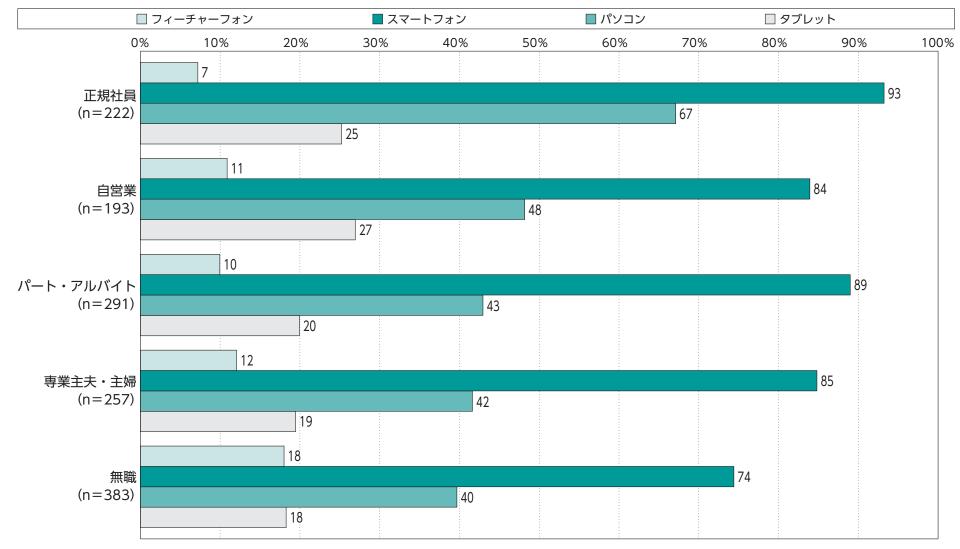
- ●60代:東海、北陸・甲信越でスマホ所有5年以上の割合が8割強。
- ●70代:関東では早くから、中国・四国はここ最近スマホ所有率が伸びる。



ICT端末所有状況[就業状況別]

資料8-6

- ●スマートフォン所有は正規社員が9割以上と高い。
- ●パソコン所有は正規社員のみ6割を超えた。

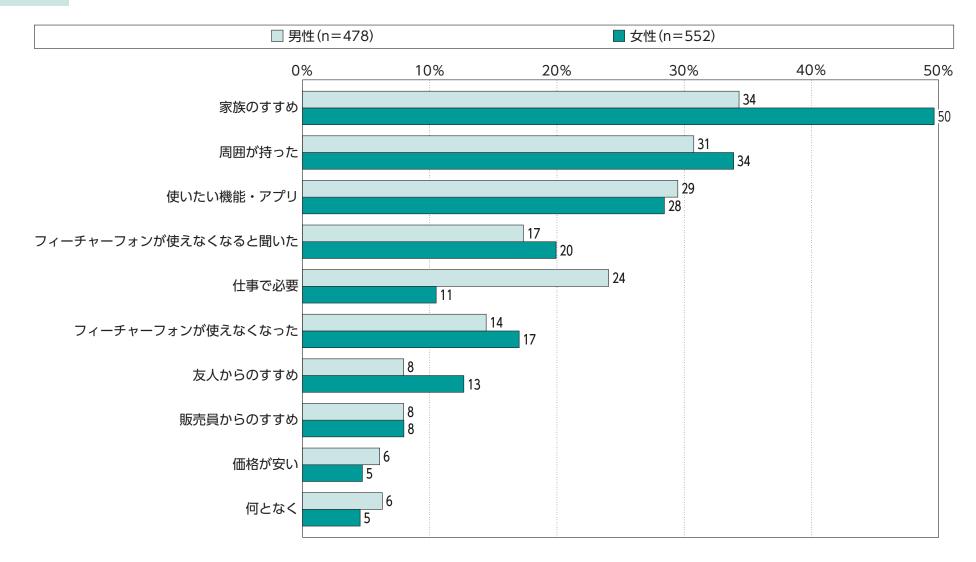


注:「パソコン」は家族と共有して所有しているものを含む。

スマートフォンを所有したきっかけ[性別](複数回答)

資料8-7

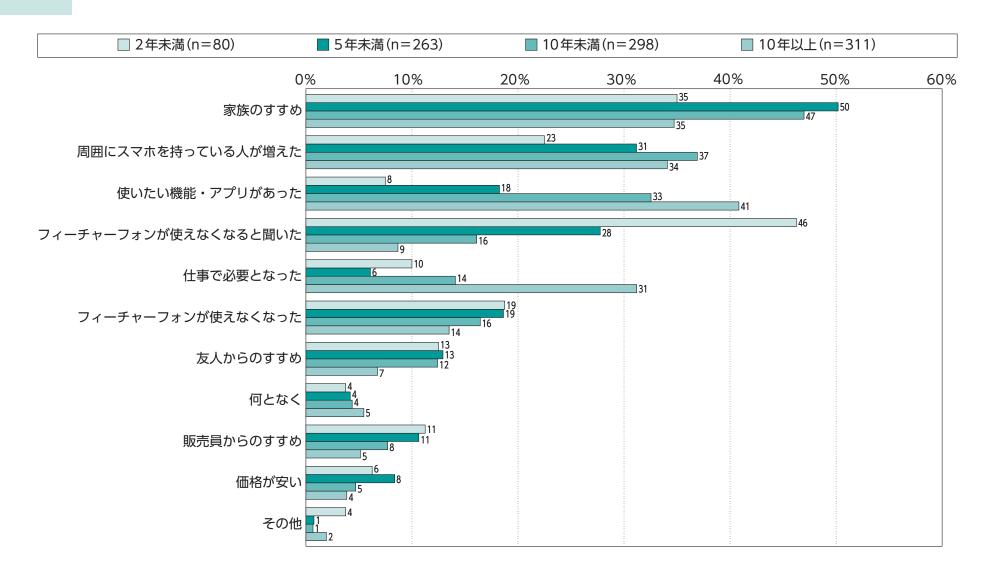
●男女とも「家族のすすめ」が最も高い。次いで「周囲が持った」「使いたい機能・アプリがあった」と続く。



スマートフォンを所有したきっかけ[スマホ所有歴別](複数回答)

資料8-8

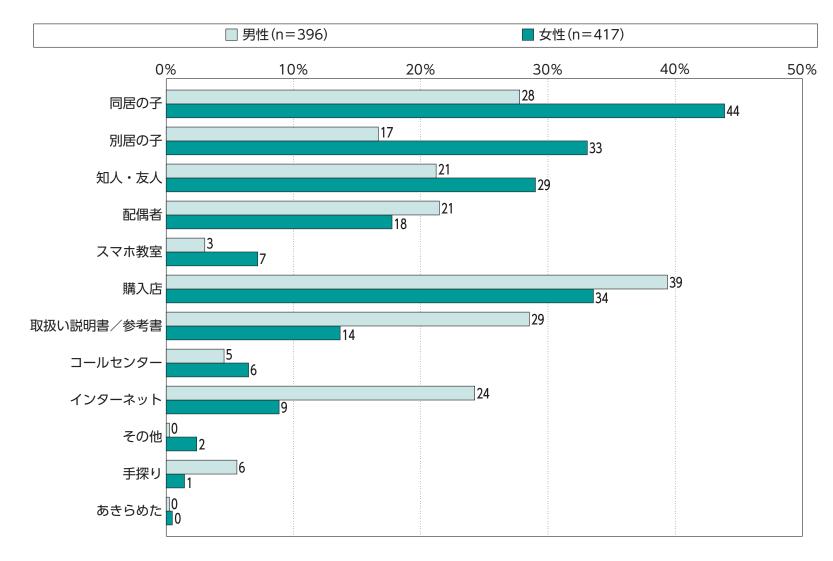
- ●2年未満では「フィーチャーフォンが使えなくなると聞いたから」が最も高い。
- ●「使いたい機能・アプリがある」はスマホ歴が短いほど低い。



スマートフォンを使いこなすための相談相手[性別](複数回答)

資料8-9

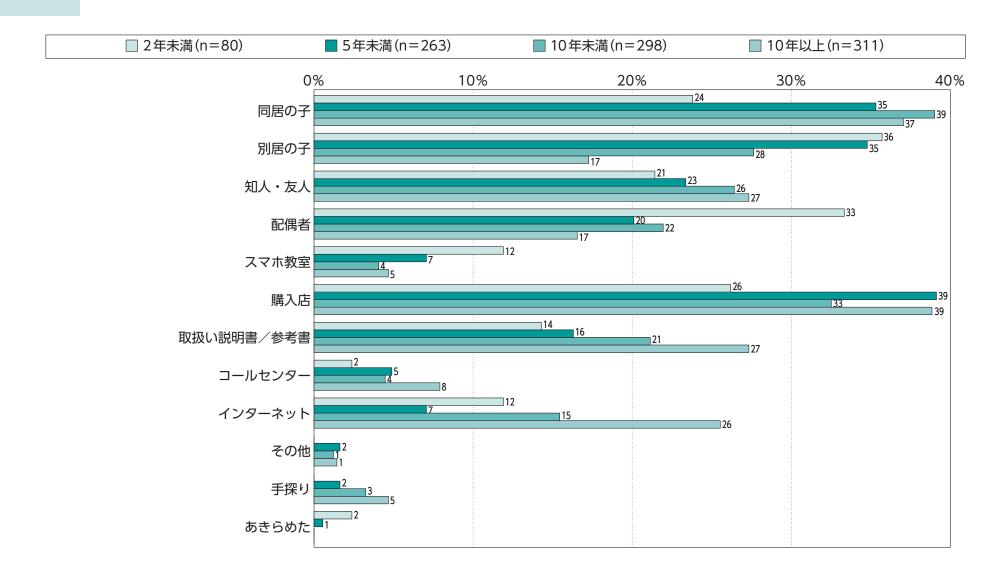
- ●女性は「同居の子、別居の子」「購入店」が多い。
- ●男性は「購入店」「取扱い説明書/参考書」「同居の子」が多い。



スマートフォンを使いこなすための相談相手[スマホ所有歴別](複数回答)

資料8-10

- ●この2年でスマホを持った人は「別居の子」「配偶者」「購入店」に聞いた割合が高い。
- ●「取扱い説明書/参考書」「インターネット」はスマホ歴が短いほど低い。



8章 シニアの生活実態とICT利用

2節 コミュニケーションとICTサービス利用

連絡手段、ICTサービス利用率

ポイント

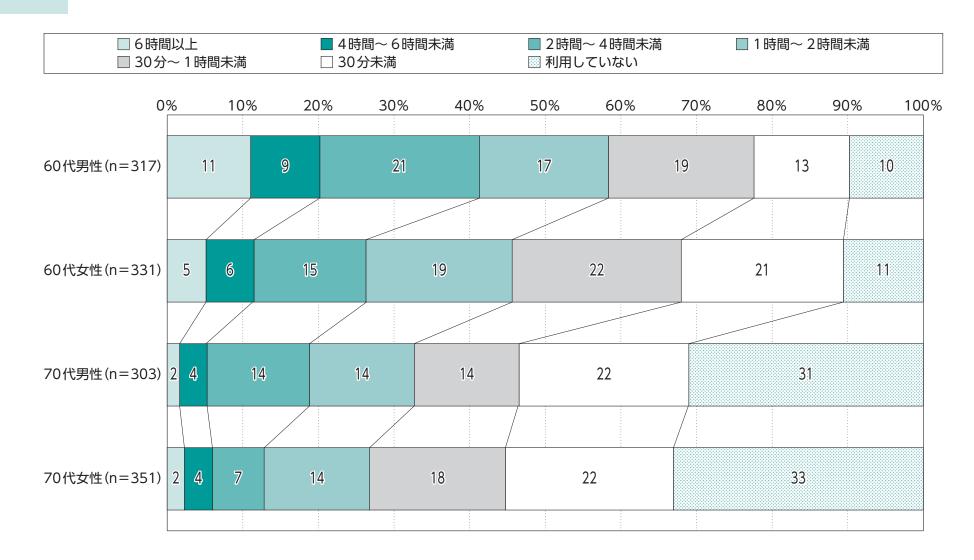
- ●インターネット利用時間:60代男性が2.2時間、女性が1.6時間、70代男性は1.0時間、女性0.9時間。男性はスマホ とパソコンが同程度、女性はスマホ利用時間が多い(資料8-12)。
- ●「Twitter」「Facebook」「Instagram」利用者の半数程度が発信を行っている(資料8-19)。
- SNSの中では「LINE」の利用率だけが続伸し、4人に3人が利用している(資料8-20)。

[資料8-11] インターネット利用時間[性年代別]203	[資料8-16] ICTサービスの利用率(複数回答)208
[資料8-12] インターネット利用時間[デバイス・性年代別]204	[資料8-17] ICTサービスの利用率[デバイス・性年代別] (複数回答) ·······209
[資料8-13] 最も多く使う連絡手段[連絡相手別・年代別]205	[資料8-18] SNSの利用率(複数回答) ······210
[資料8-14] 別居家族との連絡手段の年次推移[60代](複数回答)206	[資料8-19] SNSの受信・閲覧と発信(複数回答)211
[資料8-15] 別居家族との連絡手段の年次推移[70代](複数回答)207	[資料 8-20]]SNS の利用率 経年変化 (複数回答) ·······212

インターネット利用時間[性年代別]

資料8-11

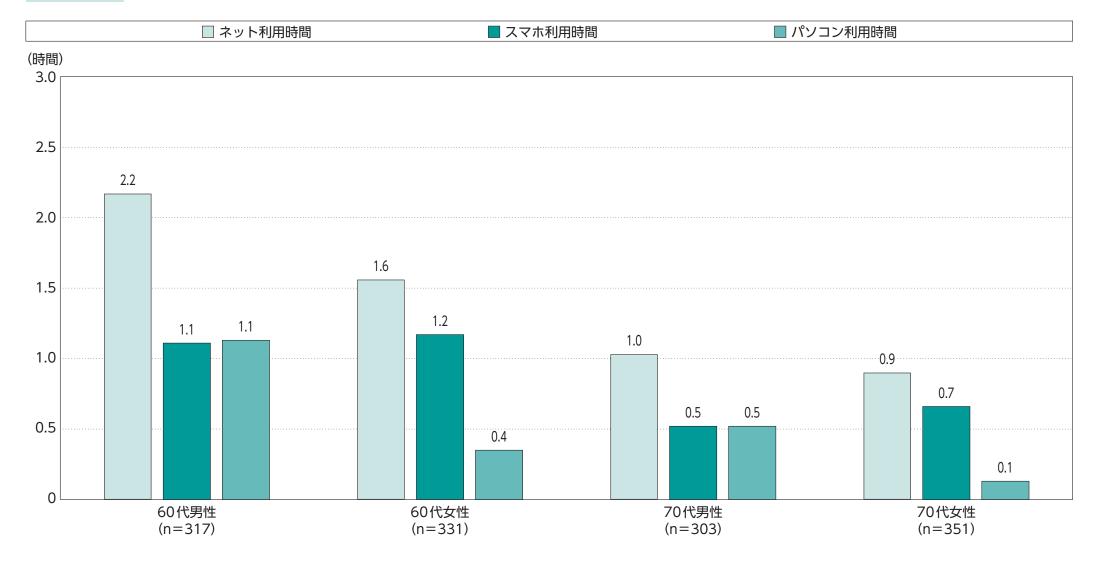
- ●60代男性の約6割、女性の約5割は1時間以上インターネットを利用。
- ●70代は男女とも約5割が30分以上インターネットを利用。



インターネット利用時間[デバイス・性年代別]

資料8-12

●男性はスマホとパソコンの利用時間は変わらず、女性はスマホが多い。

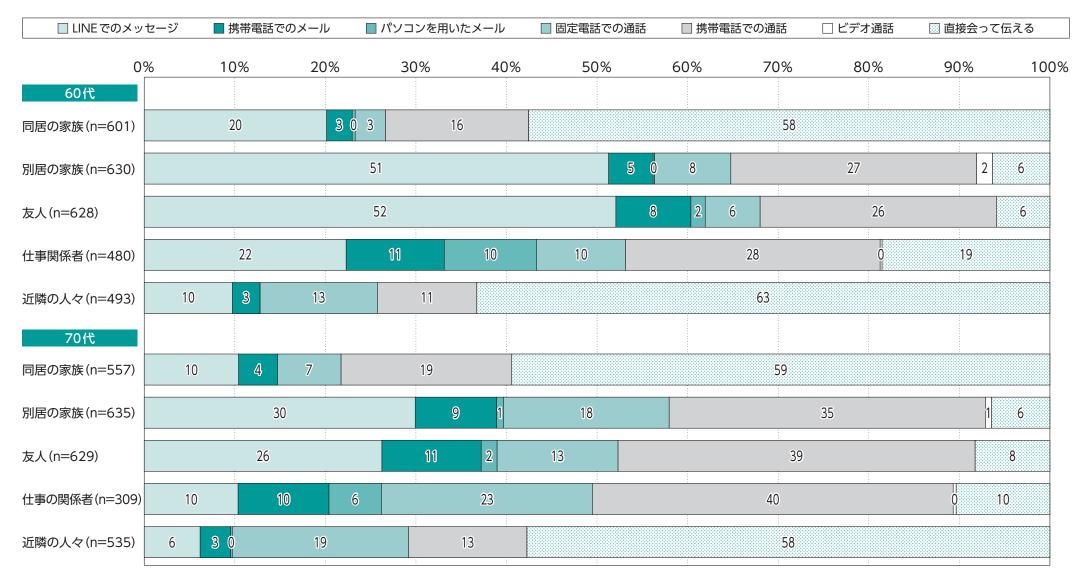


注:利用時間はそれぞれの回答結果を加重平均で算出。

最も多く使う連絡手段[連絡相手別・年代別]

資料8-13

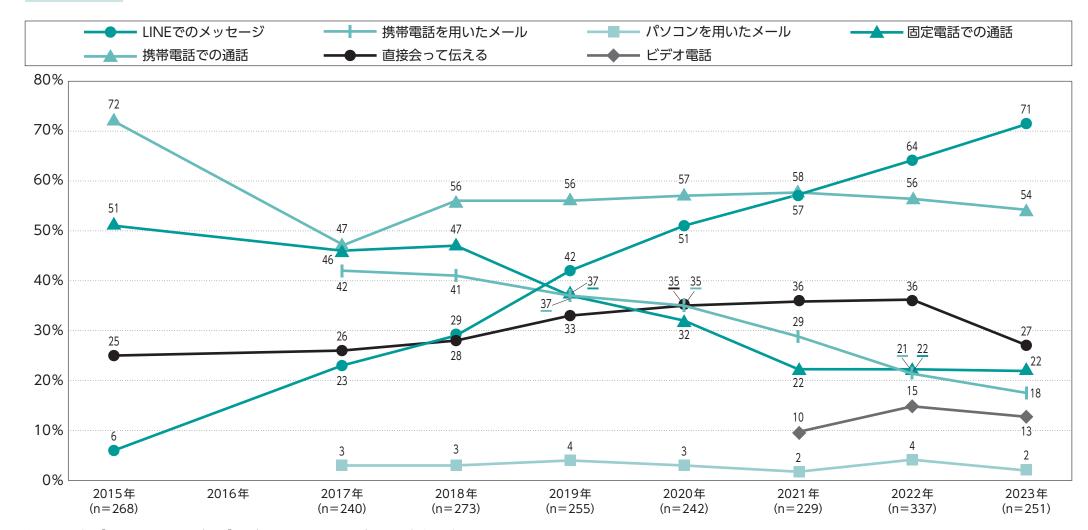
- ●60代が別居の家族、友人へ連絡する際には「LINEでのメッセージ」が半数を超える。
- ●70代は別居の家族、友人、仕事の関係者へ連絡する際には「携帯電話での通話」が最も多い。



別居家族との連絡手段の年次推移[60代](複数回答)

資料8-14

- ●「LINEでのメッセージ」が増加傾向で7割を超える。
- ●「携帯電話を用いたメール」は減少傾向で2割程度。



注1:2015年の「LINEでのメッセージ」は、「SNS(Facebook、LINEなど)」という文言で調査をしている。

注2:2016年は調査未実施。

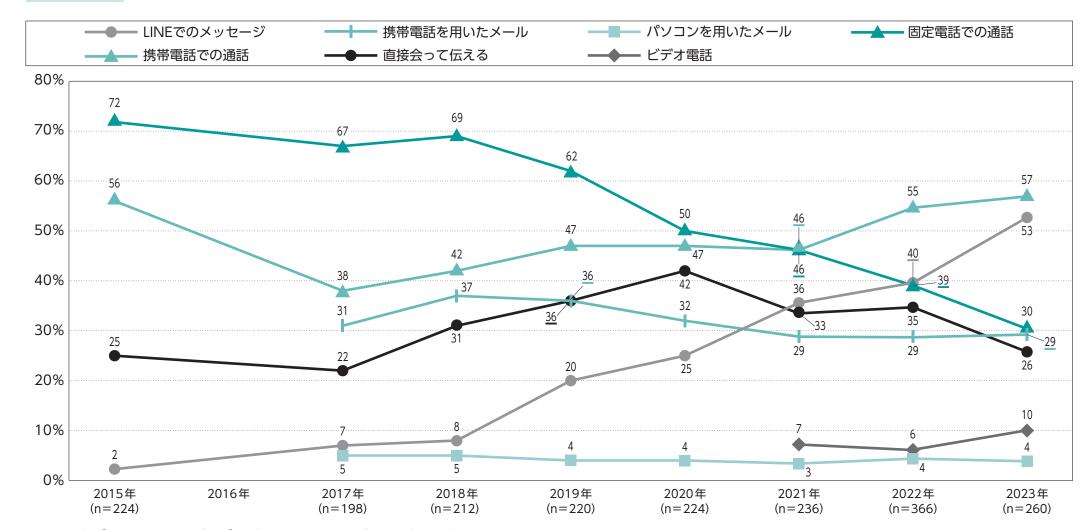
注3:「ビデオ通話」は2021年から調査開始。

出典: 2015年アクティブシニアのICT利用生活調査(訪問留置)、2017年-2022年一般向けモバイル動向調査(訪問留置)、2023年シニア調査(訪問留置)

別居家族との連絡手段の年次推移[70代](複数回答)

資料8-15

- [LINEでのメッセージ]の割合が伸び、「携帯電話での通話]と同程度に。
- 「固定電話での通話」は減少傾向で3割程度。



注1:2015年の「LINEでのメッセージ」は、「SNS(Facebook、LINEなど)」という文言で調査をしている。

注2:2016年は調査未実施。

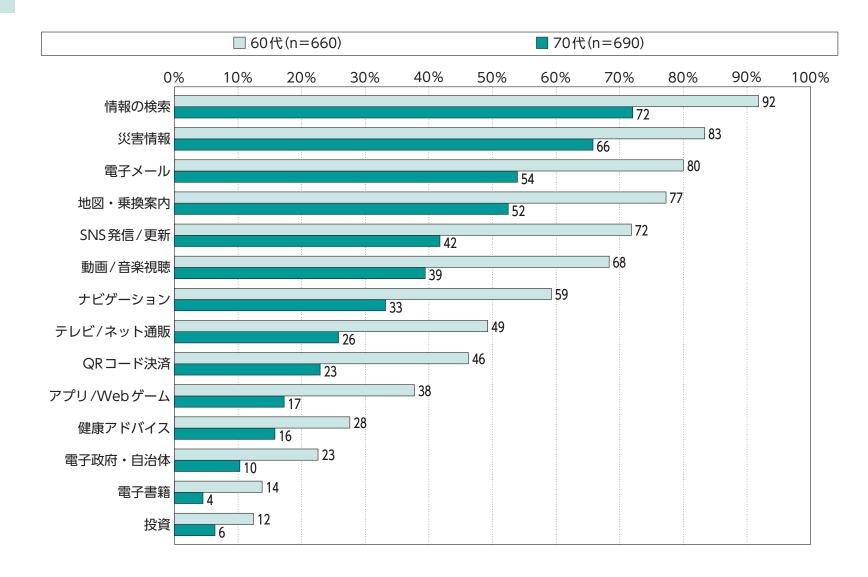
注3:「ビデオ通話」は2021年から調査開始。

出典: 2015年アクティブシニアのICT利用生活調査(訪問留置)、2017年-2022年一般向けモバイル動向調査(訪問留置)、2023年シニア調査(訪問留置)

ICTサービスの利用率(複数回答)

資料8-16

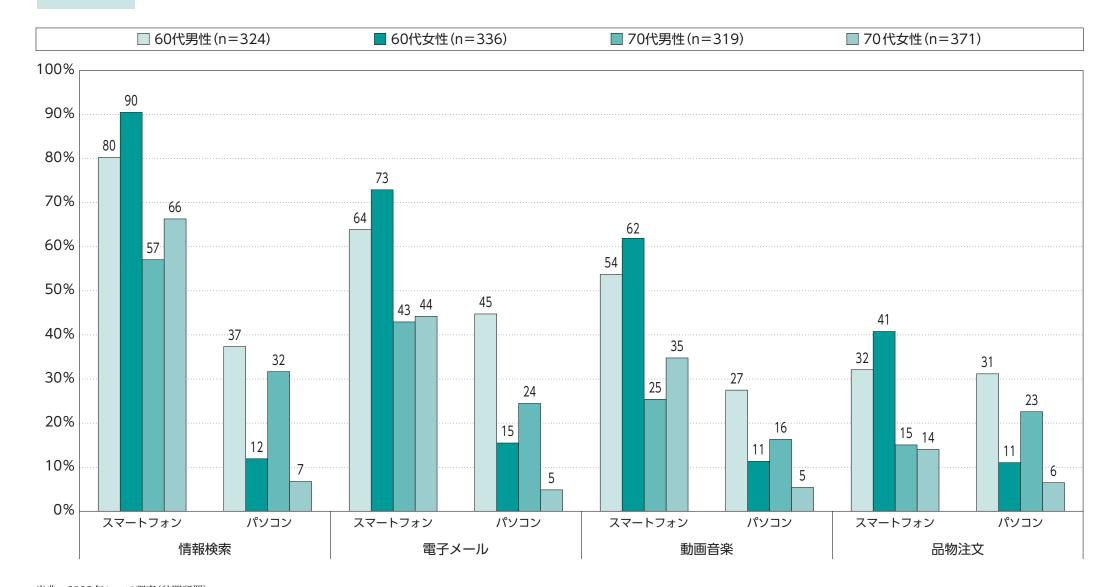
- 「情報検索」「災害情報」「電子メール」の利用率が60代では8割を超える。
- ●70代では、「情報検索」「災害情報」が6割を超える。



ICTサービスの利用率[デバイス・性年代別](複数回答)

資料8-17

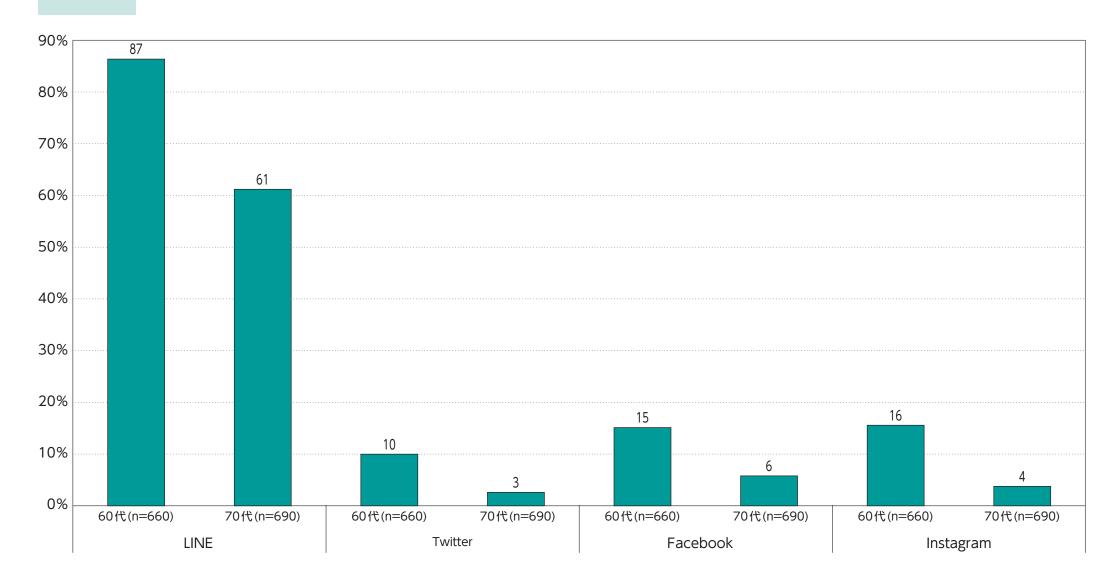
- ●女性は全サービスでスマートフォンの利用率がかなり多い。
- ●男性はサービスによりスマートフォンとパソコンの利用率が拮抗しているものがある。



SNSの利用率(複数回答)

資料8-18

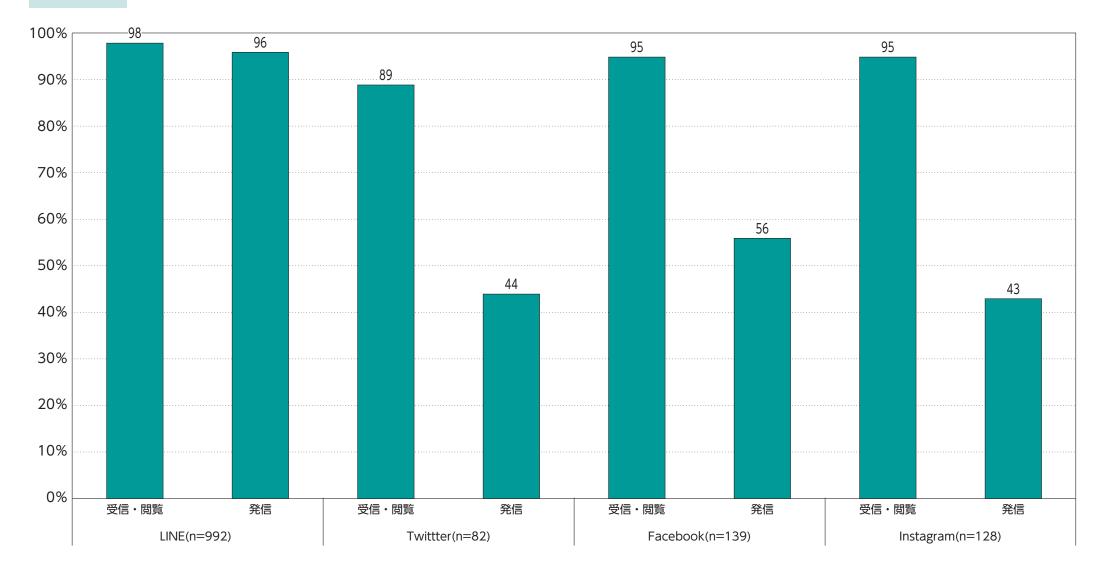
- [LINE] は60代では約9割、70代では約6割が利用している。
- ●60代では「Instagram」の利用が16%、「Facebook」の利用が15%。



SNSの受信・閲覧と発信(複数回答)

資料8-19

- [LINE] 利用者のほとんどが受信・閲覧と発信を行っている。
- [Twitter] [Facebook] [Instagram] 利用者の半数程度が発信を行っている。

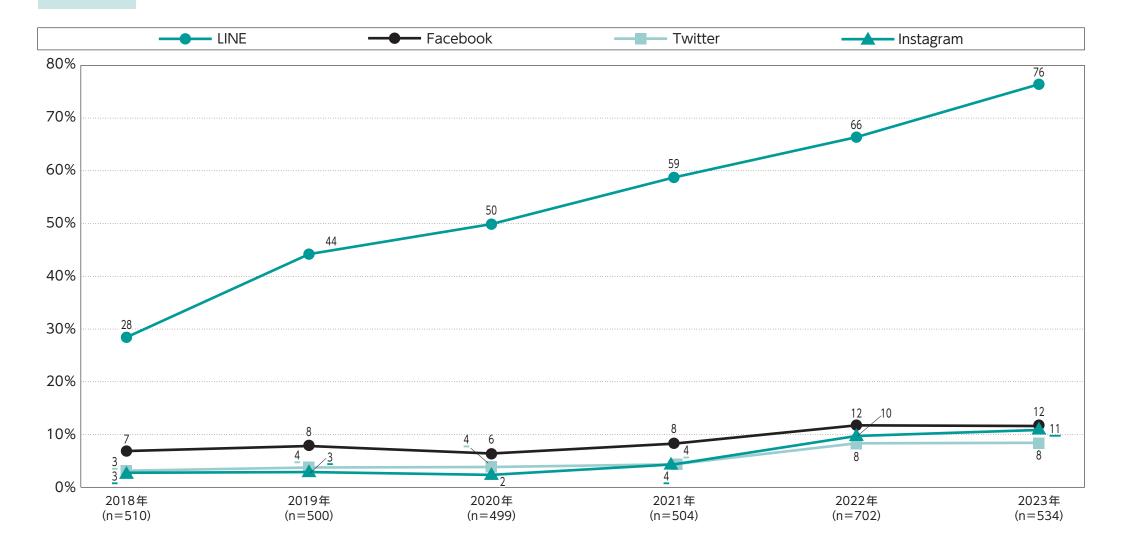


注:それぞれのサービスを利用している人が対象。

SNSの利用率 経年変化(複数回答)

資料8-20

- ●[LINE]の利用率はさらに上昇し、4人に3人が利用している。
- ●[LINE]以外のSNSは横ばい状況。



注:関東1都6県が対象。

8章 シニアの生活実態とICT利用

3節 シニアの生活の実態とICT利用

日々の活動、趣味、利用する店舗、インターネットショッピング利用、 スマホへの態度・距離感、就業、QOL

ポイント

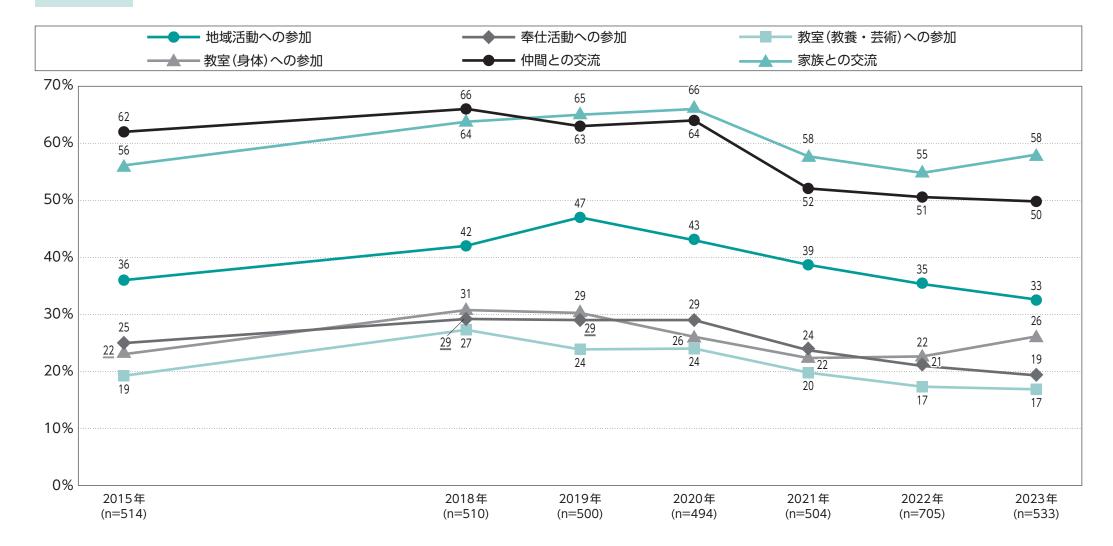
- ●日々の活動は一部項目で回復傾向(資料8-21)。
- ●約7割が週1回以上趣味を楽しんでいる(資料8-26)。
- ■インターネットショッピングは関東・近畿で高く約3割(資料8-29)。
- ●人との交流が増えた項目が高く、女性は5割程度、男性は4割程度が実感(資料8-31)。
- ●9割を超えるシニアがスマホは「持っていると便利」と感じている一方、約7割は「操作は難しい」と感じている(資料 8-32)

[資料8-21] 日々の活動実施率の年次推移214	[資料8-30] インターネットショッピング利用と経済的・時間的ゆとりの関係
[資料8-22] 日々の活動の回答傾向によるグループ分け215	223
[資料8-23] 日々の活動グループの特性216	[資料8-31] スマホ・ケータイを利用しての人とのつながりの変化[性別]224
[資料8-24] 日々の活動グループ別スマホ・ケータイ所有217	[資料8-32] スマホを所有している人のスマホへの態度・距離感225
[資料8-25] 趣味[性年代別] (複数回答)	[資料8-33] スマホを所有していない人のスマホへの態度・距離感226
[資料8-26] 趣味[性年代別] (複数回答)	[資料 8-34] 有職率 [性年代別]
[資料8-27] 利用する店舗と頻度[利用形態別]220	[資料 8-35] 今後への仕事の意欲とICT所有
[資料8-28] 利用する店舗と頻度[性年代別]221	[資料 8-36] シニアの QOL [性年代別] ····································
[資料8-29] インターネットショッピング利用[地域別]222	

日々の活動実施率の年次推移

資料8-21

- ●新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、2021年以降低下傾向。
- ●教室(身体)への参加、家族との交流は回復基調。



注1:2016年、2017年は調査未実施。

注2:調査対象は関東1都6県。

出典: 2015年アクティブシニアのICT利用生活調査(訪問留置)、2018年-2022年一般向けモバイル動向調査(訪問留置)、2023年シニア調査(訪問留置)

日々の活動の回答傾向によるグループ分け

資料8-22

●日々の活動の回答をもとに、シニアをグループ分けすると、すべての活動に積極的な「積極派」、人との交流と教室活動が盛んな「教室で いきいき」、地域活動が盛んな「地域で活躍」、人との交流が盛んな「仲間家族交流」、すべての活動に消極的な「消極派」に分けることがで きた。

グル	グループ		教室で いきいき	地域で活躍	仲間家族中心	消極派
	地域活動		×	0	×	×
日々の活動	カルチャー教室	0	0	×	×	×
	人との交流	0	0	×	0	×
サンプル数		116	117	215	421	474
構成比(%)		9	9	16	31	35

日々の活動グループの特性

資料8-23

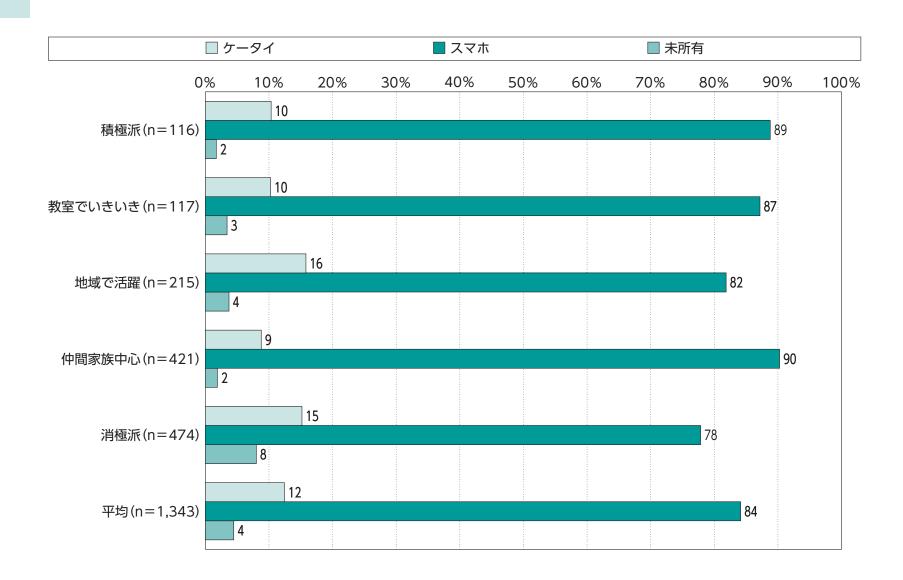
- 「積極派」は70代女性の割合が高く、時間的経済的ゆとりがあり、有職率は低い。
- ●「教室でいきいき」は70代女性の割合が高く、時間的経済的ゆとりがあり、有職率は低い。
- 「地域で活躍」は男性の割合が高い。
- ●「仲間家族中心」は60代がやや多く、やや経済的ゆとりがあり、やや有職率が高い。
- ●「消極派」は男性の割合がやや多く、経済的ゆとりが低い。

グループ	積極派	教室で いきいき	地域で活躍	仲間家族中心	消極派	平均
60代: 70代	33:67	36:64	47:53	55:45	51:49	49:51
男性:女性	22:78	23:77	58 : 42	48:52	55:45	48:52
経済的ゆとりがある	68%	62%	45%	60%	41%	52%
時間的ゆとりがある	89%	89%	79%	76%	76%	79%
有職率	42%	32%	55%	58%	54%	53%

日々の活動グループ別スマホ・ケータイ所有

資料8-24

●スマートフォン所有率は日々の活動が「積極派」「教室でいきいき」「仲間家族中心」が9割程度。



趣味[性年代別](複数回答)

資料8-25

●60代は「旅行」、70代男性は「散歩・ウォーキング」、女性は「庭いじり・ガーデニング・野菜作り」が最も多い。

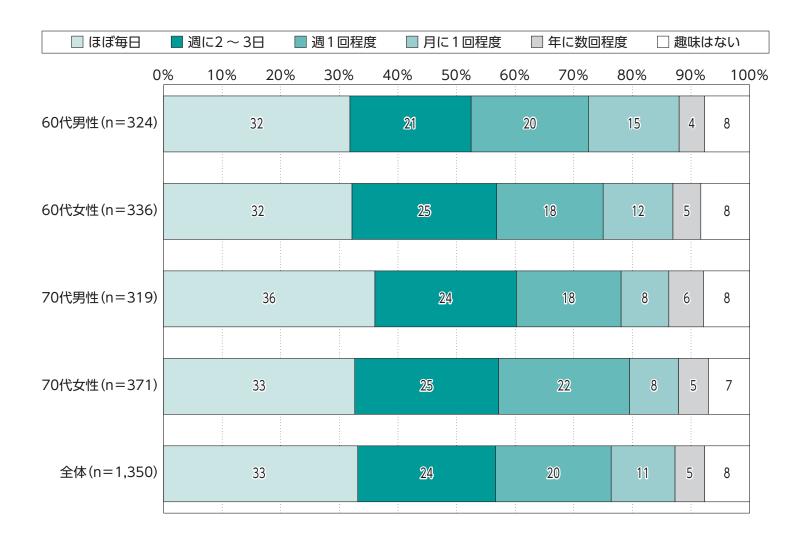
	60代男性 (n = 324)	60代女性 (n = 336)	70代男性 (n = 319)	70代女性 (n = 371)	全体 (n = 1,350)
旅行	33.6	34.5	30.7	32.6	32.9
散歩・ウォーキング	28.1	27.4	37.9	37.2	32.7
庭いじり・ガーデニング・野菜作り	20.4	31.0	27.6	43.4	31.0
読書	21.9	28.3	22.9	28.6	25.6
自身が行うスポーツ	28.4	20.5	25.7	22.1	24.1
スポーツ観戦	31.5	14.6	33.2	14.0	22.9
音楽鑑賞	23.8	22.9	19.7	19.9	21.6
映画鑑賞	22.8	25.0	18.8	19.4	21.5
料理	10.2	21.4	12.2	28.0	18.4
インターネット	29.0	14.9	19.7	7.0	17.3
手芸	0.9	25.6	0.9	26.7	14.1
学習・自己啓発	11.1	11.0	13.5	11.9	11.9
行楽・ドライブ	11.7	14.0	11.0	10.0	11.6
ゲーム(囲碁・将棋含む)	14.2	10.7	14.7	6.7	11.4
カラオケ・合唱	8.3	9.2	10.3	13.7	10.5
グルメ	6.8	14.6	5.3	12.1	9.9
美術鑑賞	7.1	9.5	7.8	13.7	9.7
競馬・競艇・競輪・パチンコ・宝くじ	14.2	3.9	20.4	1.6	9.6
その他	8.3	6.8	7.2	5.9	7.0
登山・ハイキング	9.3	5.1	6.9	6.7	7.0
写真	9.9	5.4	8.5	3.5	6.7
趣味はない	7.7	8.3	7.5	6.5	7.5

注: ■…1位 ■…2位 ■…3位 出典:2023年シニア調査(訪問留置)

趣味[性年代別](複数回答)

資料8-26

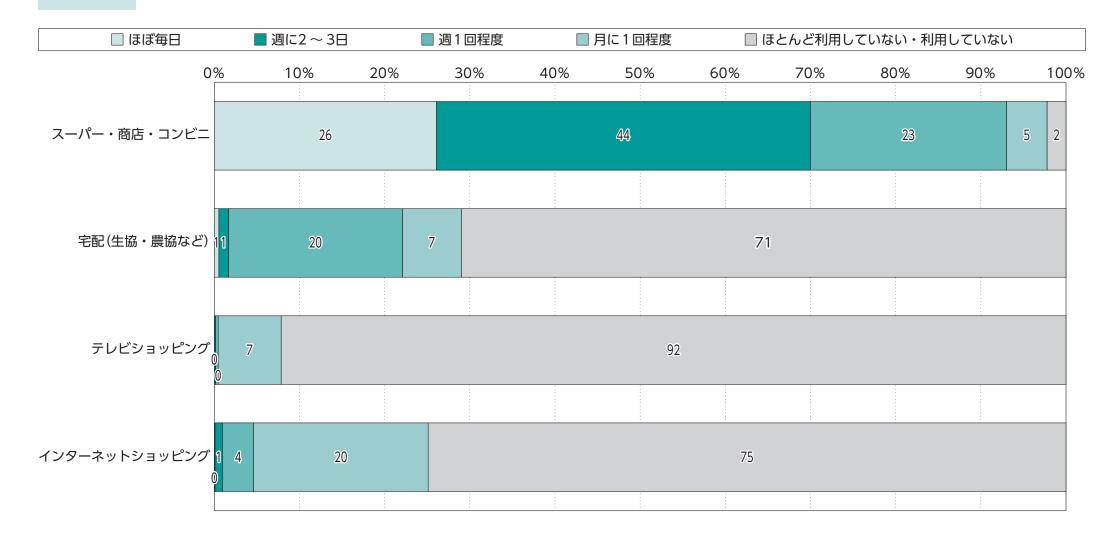
- ●7~8割が週1回以上趣味を楽しんでいる。
- ●60代より70代のほうがやや頻度が多い。男女差はみられない。



利用する店舗と頻度[利用形態別]

資料8-27

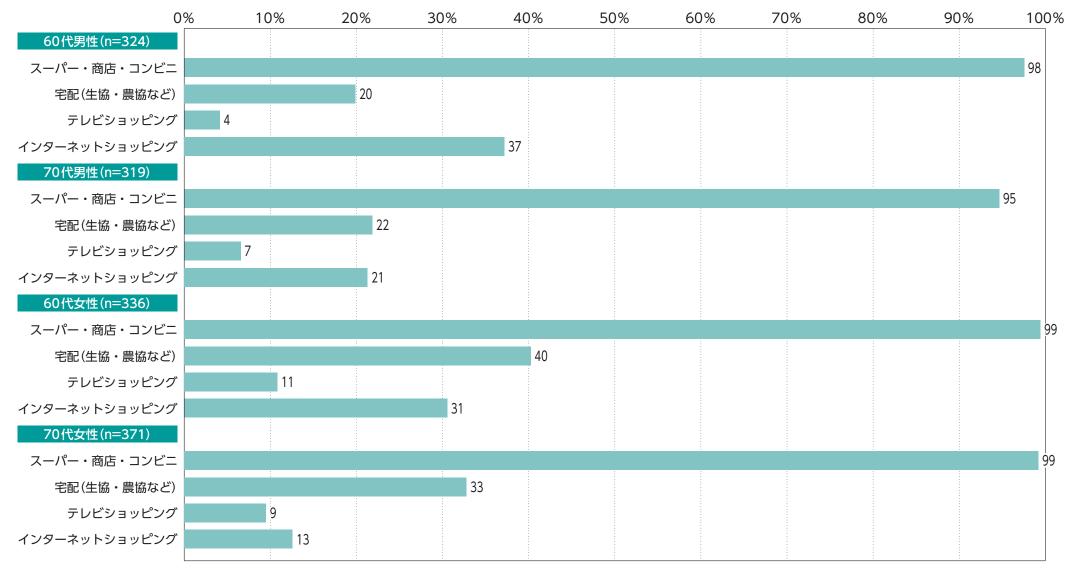
- ●週1回以上の日常の買い物は、「スーパー・商店・コンビニ」などの実店舗の利用が、9割を超えている。
- ●「インターネットショッピング」の利用は4人に1人。



利用する店舗と頻度[性年代別]

資料8-28

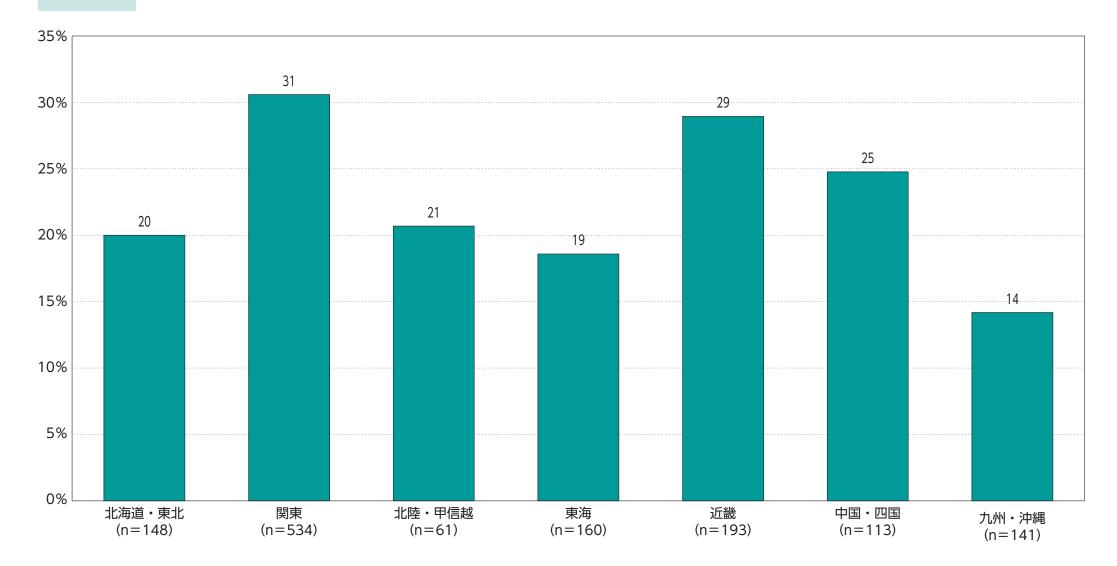
- ●「インターネットショッピング」は60代男性が比較的多く利用(37%)。
- 「テレビショッピング」は女性の利用が多い。
- 「宅配(生協、農協など)」は60代女性・70代女性が比較的多い。



インターネットショッピング利用[地域別]

資料8-29

●「関東」「近畿」の利用が高く、3割程度。

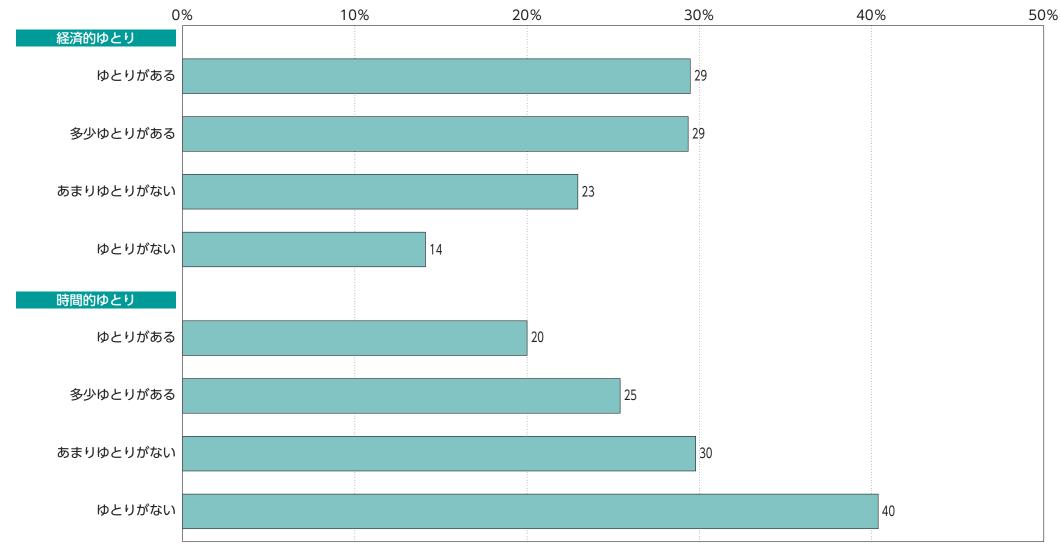


注:「インターネットで買い物をしている割合」は、月1回以上している回答の合計。

インターネットショッピング利用と経済的・時間的ゆとりの関係

資料8-30

●経済的ゆとりがあり、時間的ゆとりがない層がインターネットショッピングをより利用している。

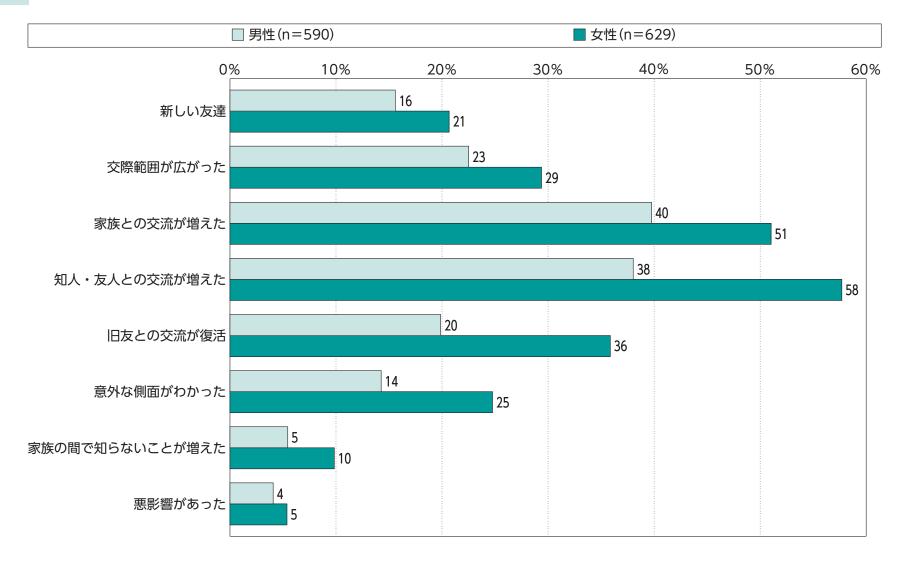


注:「インターネットで買い物をしている割合」は、月1回以上している回答の合計。

スマホ・ケータイを利用しての人とのつながりの変化[性別]

資料8-31

- ●女性のほうが人とのつながりの変化をより強く実感している。
- ●人との交流が増えた項目が高く、「家族、知人・友人との交流」は女性は5~6割、男性でも4割程度が実感している。

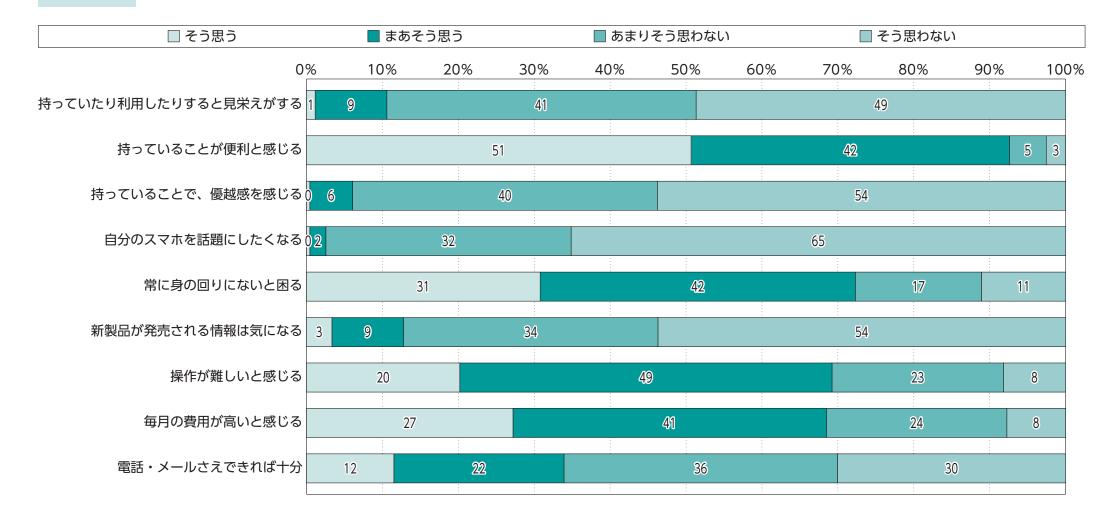


注:スマートフォン・ケータイを所有している人が対象。

スマホを所有している人のスマホへの態度・距離感

資料8-32

- ●9割を超えるシニアが「持っていると便利」と感じている。
- ●7割程度のシニアが「操作が難しい」と感じている。

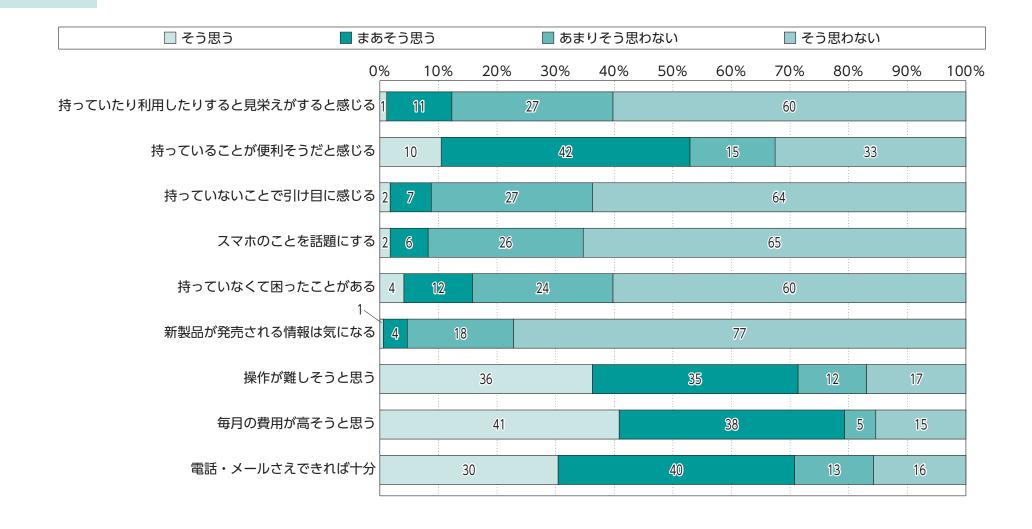


注:スマホを持っている人(n=1,138)が対象。

スマホを所有していない人のスマホへの態度・距離感

資料8-33

●5割を超えるシニアがスマホを持っていなくても「便利そう」と感じている。

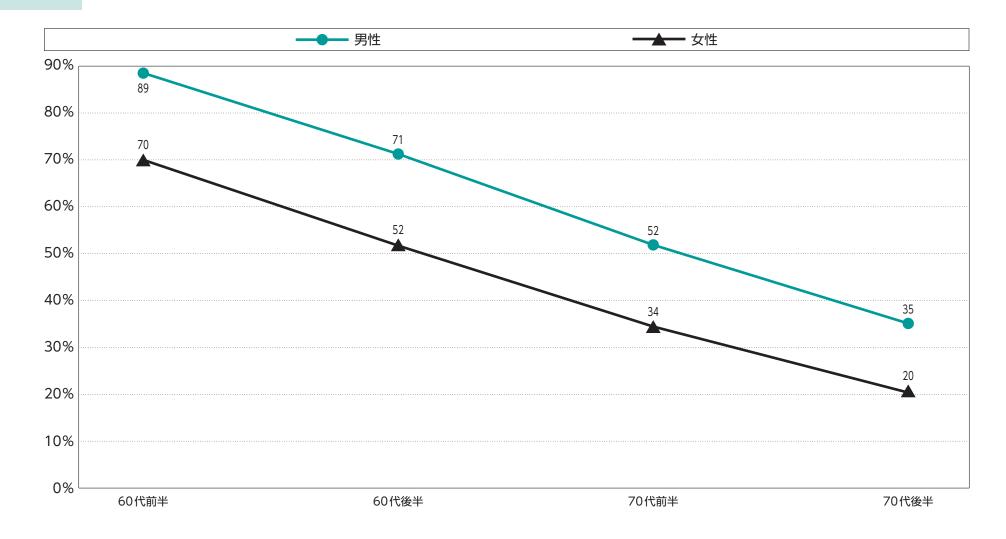


注:スマホを持っていない人(n=172)が対象。

有職率[性年代別]

資料8-34

- ●男性は70代前半になっても5割を超える人が就業している。
- ●女性は同年代の男性と比較して、15~20ポイントほど低い。

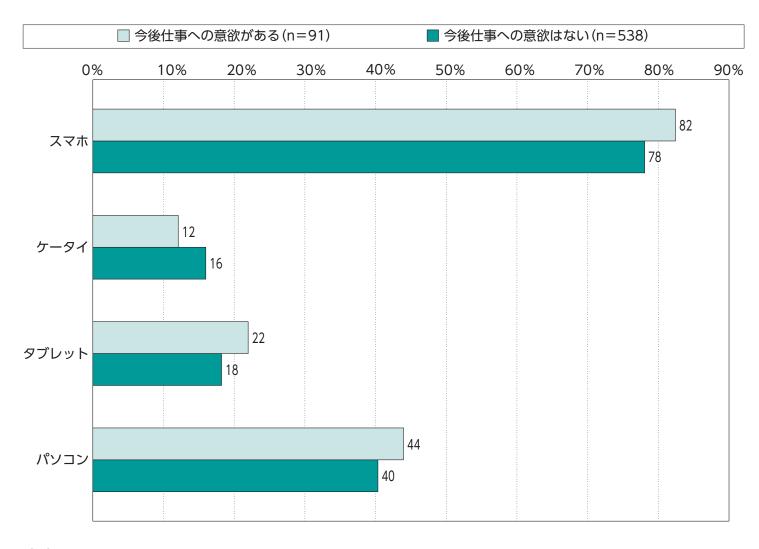


注:60代前半(男性n=157、女性n=160)、60代後半(男性n=167、女性n=176)、70代前半(男性n=187、女性n=209)、70代後半(男性n=131、女性n=162) 出典:2023年シニア調査(訪問留置)

今後への仕事の意欲とICT所有

資料8-35

●意欲がある人は「スマホー「タブレットー「パソコン」の所有率が意欲のない人に比べやや高い。



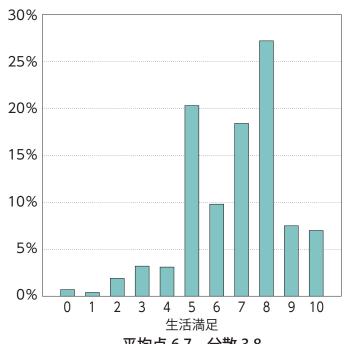
注1:現在、主婦・主夫、無職の人が対象。

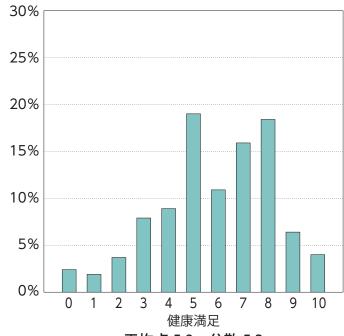
注2:「パソコン」「タブレット」は家族で共有して所有している機器も含む。

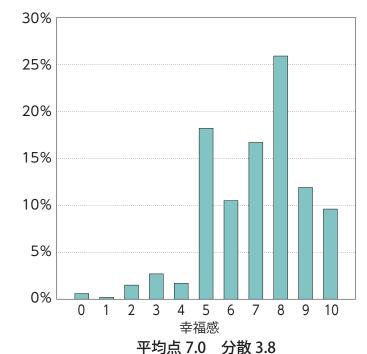
シニアのQOL [性年代別]

資料8-36

- ●健康満足度は生活満足度、幸福感と比較して点数のばらつきが大きい。
- ●70代後半になるとやや得点が上がる傾向がみられる。







平均点 6.7 分散 3.8

平均点 5.9 分散 5.3

平均点(10点満点中)

		男	性		女性			
	60 代前半	60 代後半	70 代前半	70 代後半	60 代前半	60 代後半	70 代前半	70 代後半
生活満足	6.5	6.7	6.5	7.1	6.7	6.7	6.8	7.1
健康満足	5.7	5.6	5.8	6.2	5.9	5.9	6.0	6.1
幸福感	6.7	6.9	6.9	7.3	7.0	7.1	7.1	7.3

8章 シニアの生活実態とICT利用

4節 シニアの情報格差とICTへの期待

ICTを使いこなせないことで感じている損失、新しいICTサービスへの期待

ポイント

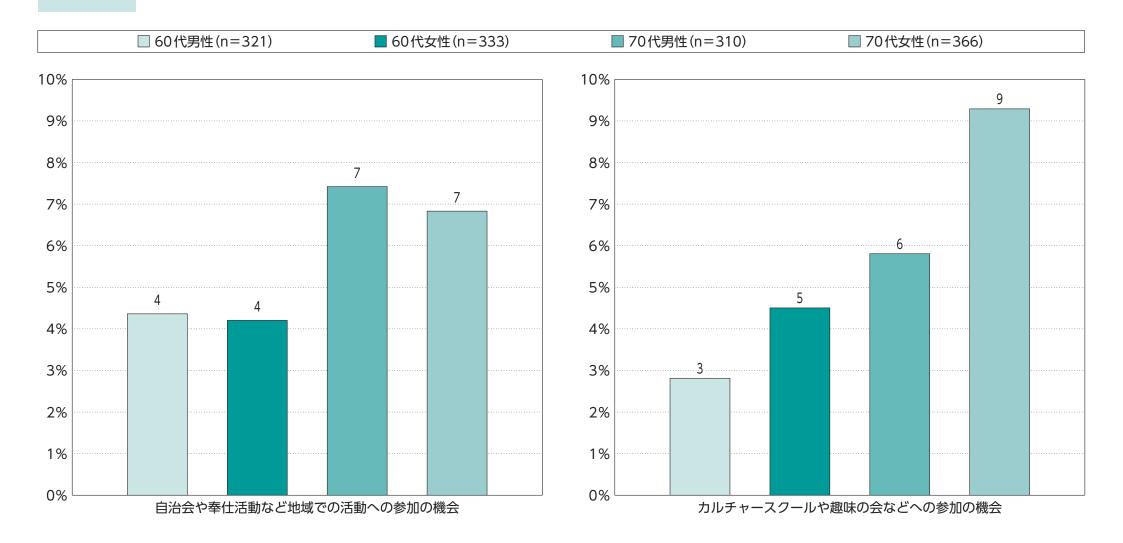
- ■ICTを使いこなせないことで感じた損失は70代・女性が高い(資料8-37、資料8-38、資料8-39)。
- ●新たなサービスへの期待は60代・女性が高い(資料8-40、資料8-41、資料8-42)。

[資料8-41] 新たなサービスへの意向 生活・仕事[性年代別]235	ICTを使いこなせないことで感じた機会損失[性年代別]231	[資料8-37]
[資料8-42] 新たなサービスへの意向 移動・コミュニケーション[性年代別]	ICTを使いこなせないことで感じた交流損失[性年代別]232	[資料8-38]
236	ICTを使いこなせないことで感じた情報・経済損失[性年代別] …233	[資料8-39]
	新たなサービスへの意向 医療・介護[性年代別]234	[資料8-40]

ICTを使いこなせないことで感じた機会損失[性年代別]

資料8-37

●地域活動、教室活動ともに70代がやや高く、地域活動は男性、教室活動は女性がやや高い。

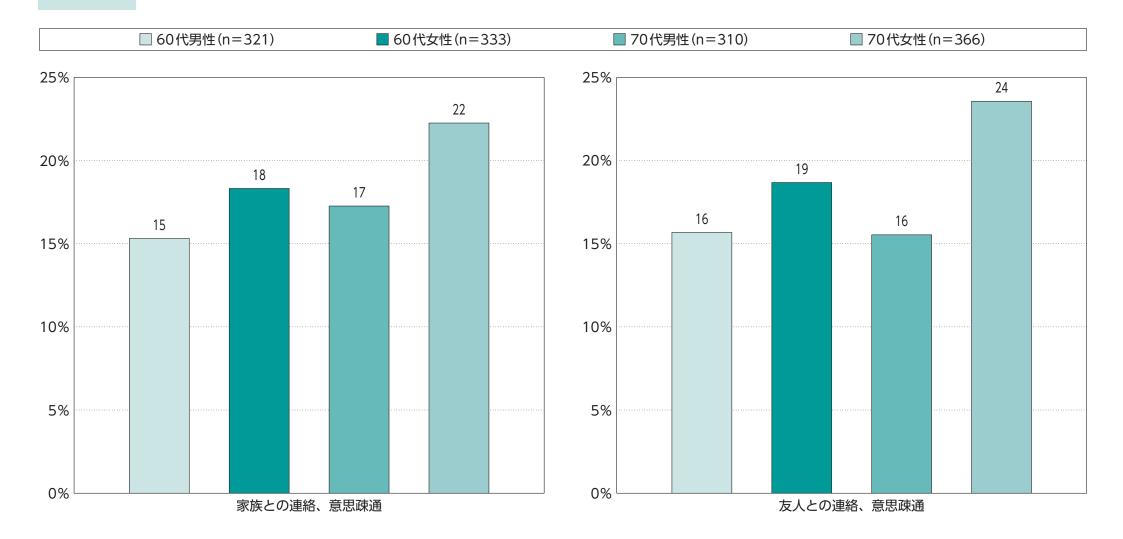


注:「感じる」「ある程度感じる」の合算値。 出典:2023年シニア調査(訪問留置)

ICTを使いこなせないことで感じた交流損失[性年代別]

資料8-38

●「家族、友人との連絡、意思疎通」はいずれも70代女性がやや高く、2割を超す。

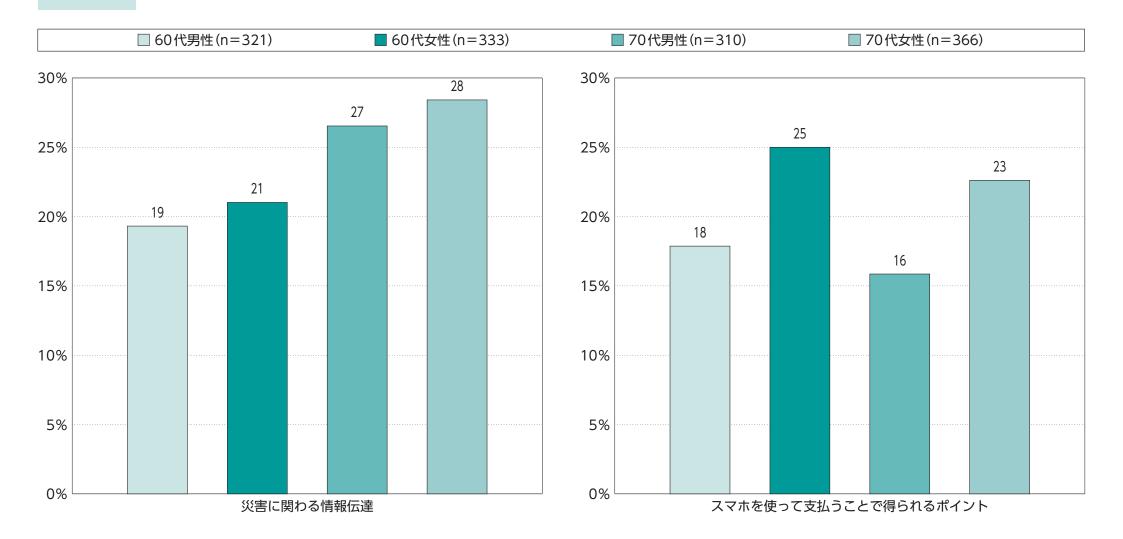


注:「感じる」「ある程度感じる」の合算値。 出典:2023年シニア調査(訪問留置)

ICTを使いこなせないことで感じた情報・経済損失[性年代別]

資料8-39

- ●災害情報は70代が高く約3割。
- ●経済損失は女性が高い。

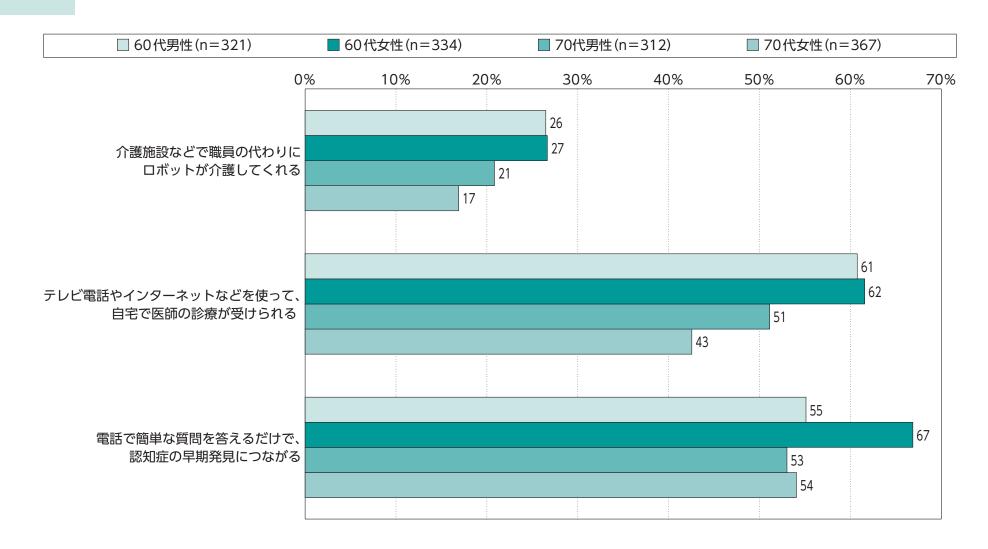


注:「感じる」「ある程度感じる」の合算値。 出典:2023年シニア調査(訪問留置)

新たなサービスへの意向 医療・介護[性年代別]

資料8-40

- ●「電話での認知症早期発見」は60代女性が高く、3人に2人がそう思うと回答。
- ●60代がやや高い傾向。



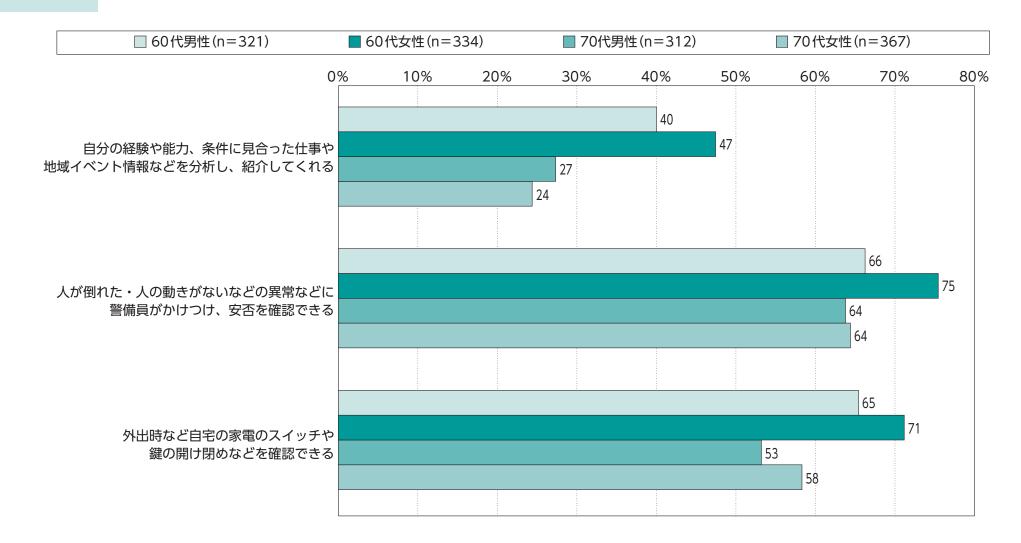
注1:「そう思う」「まあそう思う」の合算値。

注2:既に利用している人(いずれも1%未満)は対象外。

新たなサービスへの意向 生活・仕事[性年代別]

資料8-41

- ●「安否確認」は60代女性が高く、4人に3人がそう思うと回答。
- ●60代がやや高い傾向。



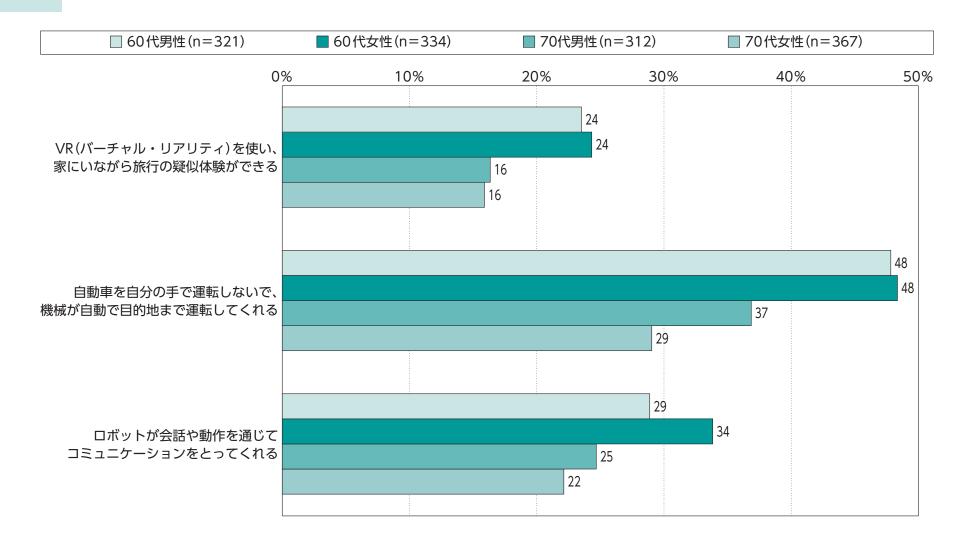
注1:「そう思う」「まあそう思う」の合算値。

注2:既に利用している人(いずれも1%未満)は対象外。

新たなサービスへの意向 移動・コミュニケーション[性年代別]

資料8-42

- ●「自動運転」は60代が高く、約半数。
- ●60代がやや高い傾向。



注1:「そう思う」「まあそう思う」の合算値。

注2:既に利用している人(いずれも1%未満)は対象外。